

要旨

問題の所在

本研究の長期的な目的は、サステイナブル・ツーリズム (sustainable tourism) の実現である。サステイナブル・ツーリズムの研究分野では、特に宿泊業による環境破壊が注目を集めるようになった。世界の観光の発展の流れに乗り、台湾でも、宿泊業の生産規模が拡大し、その中で、台湾の民宿の軒数も急増した。従って、環境負荷が大きい宿泊業の一形態である民宿の軒数が急速に増えたのであるから、単位当たりの自然環境にもたらされる環境負荷は大きくなっていると考えられる。台湾の民宿は、アメニティと互いに依存しあう関係にある。しかし、この民宿は、環境負荷を生み出しているため、相互依存関係にあるアメニティを犠牲にしながらかつており持続的ではないと考えられる。

このことからわかるように、民宿を持続可能なものとするためには、アメニティをどのように取り扱うかが重要な視点の 1 つとなる。観光の振興の方法には、現場の実情である①既存のアメニティの要素である地域の限られた量の資源を消費して観光客を呼び込もうとする方法と、本研究が採用する②アメニティの質を向上させることで、地域の魅力を高めて訪れたい人を増やし観光を振興する方法とが考えられる。①の場合、観光産業が、地域のアメニティの質を犠牲にしながらかつて短期の視点で収益を追求する悪い状況に陥る可能性がある。台湾の宿泊業の経営では①の方法がとられていると考えられる。

研究目的

本研究の目的は、アメニティの質を向上させ、台湾の宿泊業における環境保護と経済発展の両立を図り、宿泊業を持続的に発展させて、さらにサステイナブル・ツーリズムの実現に繋げていくことである。

研究方法

台湾の民宿の環境負荷を低減させるためには、環境行動を改善することが急務であることを述べる。そして、この問題を解消する方法を、上述の①のような環境保護と経済活動の対立とそのバランスを考えるとという視点で捉えず、②の考え方に基づいて考える。具体的には、民宿の資源の使用に関する環境行動

にどのような問題があるのかを分析し、環境行動の問題点を抽出して、モデルケースで用いられている政策を参考に民宿の環境行動を改善する方法を考案する。問題を解消する取り組みの主体は政府であることとし、その手段としては環境政策を使用する。

結論

台湾の民宿経営による環境負荷を低減させるために行った郭（2014）の分析で、環境行動を向上させることが急務であることを示した。そして、台湾の民宿の環境行動の具体的な問題点を抽出した。

調査対象の民宿の「水量の計測装置を設置しないまま水資源を使用する」という環境行動としてふさわしくない行動の問題は、「市場の失敗」と「政府の失敗」が組み合わさった問題である。ここでの「市場の失敗」は、水資源や自然環境の使用による受益者としての民宿が支払うべき対価が不明確なままであることから生じる問題である。この「市場の失敗」を解消しようとして政府が行った政策がうまく機能せず、地下水等の水資源を使用する受益者に対価の負担を求める仕組みが社会に存在しないので外部不経済が発生してしまう問題がここで述べた「政府の失敗」である。また、人口規模や産業活動の拡大により、水資源の使用量が自然の許容量に近づくようになり、稀少性を持つようになった地下水等の水資源が管理されずに使われていることは問題である。正確な取水量が把握されていないことから、排水量も把握されていないことを意味する。多くの場合、下水道への排水がなされていなかったり、処理されないままの汚水が環境中に排出されていたりすることが考えられる。よって、(1)「自然の水環境に対する質的な影響の管理がなされていない問題」が同時に存在していることがわかる。また、この問題は、直接的には、(2)「自然の水環境に対する量的な影響の管理がなされていない問題」に繋がっている。

政府が行うべきポリシー・ミックスを用いた環境政策の内容は、日常的には、汚水の排出など、水資源の質的な管理を優先するものである。また、万が一、地下水位低下、さらには地盤沈下など、水資源の量的な管理が必要となった場合には、取水設備に対する規制を行い、実質的に、取水量を制限する手法が考えられる。

このような対策を実施することで、民宿を取り囲む社会的な状況が水資源の使用の受益者に対価を負担させる方向に改善され、その中で、民宿の環境行動

も、より望ましい方向に誘導されて、民宿の経営による環境負荷を低減できる。これにより、アメニティの質が向上され、地域の魅力が向上し、より多くの観光客を呼び込むことができるようになり、環境保全と経済発展が両立され、宿泊業を含めた観光産業が持続的に発展し、サステイナブル・ツーリズムへと繋がっていく。

今後の課題

本研究の分析の途中で除外された項目の再検討、政策の費用便益分析や財源に関する定量的な分析、民宿以外の宿泊業の施設や今回の調査対象以外の事例の調査と分析等は、今後に残された課題である。

学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 81 号	氏 名	郭 淑娟
論文題目	台湾の民宿産業における環境負荷に関する研究		
(論文審査概要)			
<p>郭淑娟氏の学位申請論文「台湾の民宿産業における環境負荷に関する研究」は環境に対する知識に基づく「環境態度」と実際に人々が行う「環境行動」の差異を調べ、台湾の民宿産業においてより望ましい環境行動を実施させることを目的としている。環境には様々な問題があるが、本論文では主に水資源にテーマを絞り、台湾と日本の比較から、環境行動についての事例分析を行っている。本論文の構成は以下のとおりである。</p> <p>序章 はじめに</p> <p>第1部 宿泊業の環境行動についての考察</p> <p>第1章 日本と台湾の持続可能な宿泊を目指している環境保護行動に関する先行研究とアメニティの概念の検討</p> <p>第2章 台湾の民宿経営者の環境態度と環境行動の調査と分析</p> <p>第3章 台湾の民宿経営者による資源利用の環境行動に関する問題点の抽出</p> <p>第2部 水資源管理の政策の現状分析</p> <p>第4章 新北市水利局への聞き取り調査</p> <p>第5章 水量メーターを設置しないまま水資源を使用する台湾の民宿経営者による環境行動の問題を解決するための日本におけるモデルケースの選定</p> <p>第6章 福岡市と東京都板橋区のモデルケースの調査と分析</p> <p>第3部 環境政策手段の理論的な検討及び応用としての提言</p> <p>第7章 ポリシー・ミックスの概念の理論的検討</p> <p>第8章 台湾の民宿による水資源の使用の環境行動の解決策</p> <p>終章 まとめと今後の課題</p> <p>第1部は宿泊業の環境行動に関する基礎研究の部分である。第1章では環境行動に関する既存の研究を精査し、様々な専門家による定義や概念、研究方法などをレビューした。第2章では台湾における民宿経営者の環境態度と環境行動の差異をアンケート調査から導き出し、第3章にて環境行動に関する問題点を抽出した。なかでも人口密度が高く、なおかつ平地が少ない台湾にとって水資源の管理は非常に重要であるとした。しかしながら、この水資源は十分に管理されていなく、地下水の過度なくみ上げによる地盤沈下や下水の垂れ流しによる水質汚濁が大きな問題になっている。</p>			

第2部は第1部で明らかにされた水資源の諸問題を基に、台湾および日本の自治体にて聞き取り調査を行った実証研究である。第4章では台湾の新北市水利局にて聞き取り調査を行い、自治体側が水資源の諸問題を把握しているのにもかかわらず、それに対する有効な手段が見つかっていない現状を明らかにした。問題解決の手がかりとして、第5章では日本における水管理について統計データを元に成功事例を抽出した。第6章では第5章の結果を基に、質的な管理に成功した福岡市と量的な管理に成功した東京都板橋区にて聞き取り調査を行った。

第3部は第2部で行った個々の成功事例を応用し、環境経済学や環境政策の視点から、より望ましい形の水資源の環境行動を導き出そうとするものである。第7章では税や罰則規定に基づく個々の既存の政策概念では十分対応できず、そのため複合的なポリシーミックスの導入が不可欠であるとした。第8章では第7章で導き出されたポリシーミックスや第2部で行われた実証研究を基に、台湾における実施可能な水資源の環境行動の解決策を分析した。

郭氏の学位申請論文は先行研究のレビューを十分行った後、現地にてアンケートを用いた基礎的なデータ収集を行い、更にデータから導き出された問題点を掘り下げるために関係者への聞き取り調査を行っている。それぞれのアンケートや聞き取り調査は予備調査を行った後に本調査を行っているため、フィールドワークを基調とした調査として妥当な方法である。第2部までの研究だけでも十分であるが、更に第3部ではポリシーミックスを用いた政策提言も試みている。本研究の学術的・実証的な重要性に加え、巻末にある一次資料を含めると300頁に及ぶ力作でもある点から、本学位申請論文に対し、審査委員会は「合」と判断した。